

卒業論文

文芸誌を取り巻くもの——九州の出版から見る——

2013 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

要約

本稿は、九州で文芸誌を創刊し、読者に届けている人たちに対する聞き取りをもとにして、「地方」から発信することの意義を提示することを目的としている。出版業界自体が低迷するなか、「中央」からの圧倒的な発信力に席卷され、全体主義的な方向に向かう社会で、「地方」から発信している人たちはどのような状況にあるのか。また、「中央」から虐げられてきた「地方」としての生活を、文学で伝えてきた系譜がある九州において、その伝統は受け継がれているのか。

「中央」と「地方」の関係に留意しながら、「空間的側面」「発信する媒体」「発信する主体」の3つの観点から、「地方」から発信することの意義を検討する。

はじめに、九州で、文学が為してきたことを述べ、先行研究を参考に「中央」と「地方」の関係性について考察した。続いて、本稿における分析の方法論と分析の焦点においては、前述した3つの観点の詳細について言及した。調査の概要と対象を説明した後、分析に入った。分析においては、各地域のデータで俯瞰するだけでは、その実態をつかむことは困難であると判断し、数値などのデータに加え、聞き取り結果や各事例にも着目した。最後に、「中央」と「地方」の関係、媒体の変化、均質化の存在や、「地方」出版が別の価値を創造していることの可能性を示した。そして本稿の一般性の欠如などについても付言して本稿の結びにかえた。

目次

- 1 問題の所在
 - 1.1 文学と九州
 - 1.1.1 九州の文芸誌が培ってきたもの
 - 1.1.2 九州の文芸誌の今
 - 1.2 先行研究
 - 1.2.1 「中央」と「地方」
 - 1.2.2 「地方」出版
 - 1.2.3 物語
 - 1.3 九州から文芸誌を発信している人たちの事例をとりあげる意義
 - 1.4 小括
- 2 本稿における分析の方法論と分析の焦点
 - 2.1 本稿における方法論
 - 2.2.1 空間的側面
 - 2.2.2 発信する媒体
 - 2.2.3 発信する主体
- 3 調査の概要と対象について
 - 3.1 調査のスケジュール
 - 3.2 調査対象について
 - 3.2.1 調査対象A氏について
 - 3.2.2 調査対象B氏について。
 - 3.2.3 調査対象C氏について
 - 3.3 調査対象の選定理由
- 4 空間的側面からの考察
 - 4.1 全国の出版社
 - 4.2 地方の流通
- 5 発信する媒体
 - 5.1 文芸誌の歴史
 - 5.2 紙の本の役割の変化
 - 5.3 デジタル化と出版

- 5.4 変化の中の文芸誌
- 5.5 紙媒体の文芸誌
 - 5.5.1 A氏
 - 5.5.2 B氏
 - 5.5.3 C氏
 - 5.5.4 聞き取りの小括
- 6 発信する主体
 - 6.1 A氏に対する聞き取りから
 - 6.2 B氏に対する聞き取りから
 - 6.3 C氏に対する聞き取りから
- 7 近年、九州で創刊された文芸誌
 - 7.1 はじめに
 - 7.2 福岡市『たべるのがおそい』
 - 7.3 熊本市『アルテリ』
 - 7.4 熊本市『片隅』
- 8 文芸誌を取り巻くもの
 - 8.1 紙という媒体
 - 8.2 「地方」と「中央」の関係の変化
 - 8.3 九州の文学を支える人たち
 - 8.4 「地方」から発信すること

注釈

参考文献

謝辞